

情報セキュリティ各分野の分類

情報セキュリティ各分野において、攻撃手法を分類すると図1のようになります。サイバー攻撃問題と情報漏洩（ろうえい）等の情報管理問題は問題の質と対策が異なるため、分けて考える必要があります。また、サイバー攻撃は、多種多様な事案が発生するため、どの攻撃パターンに対する対策をとるべきなのかを検討して対応する必要があります。

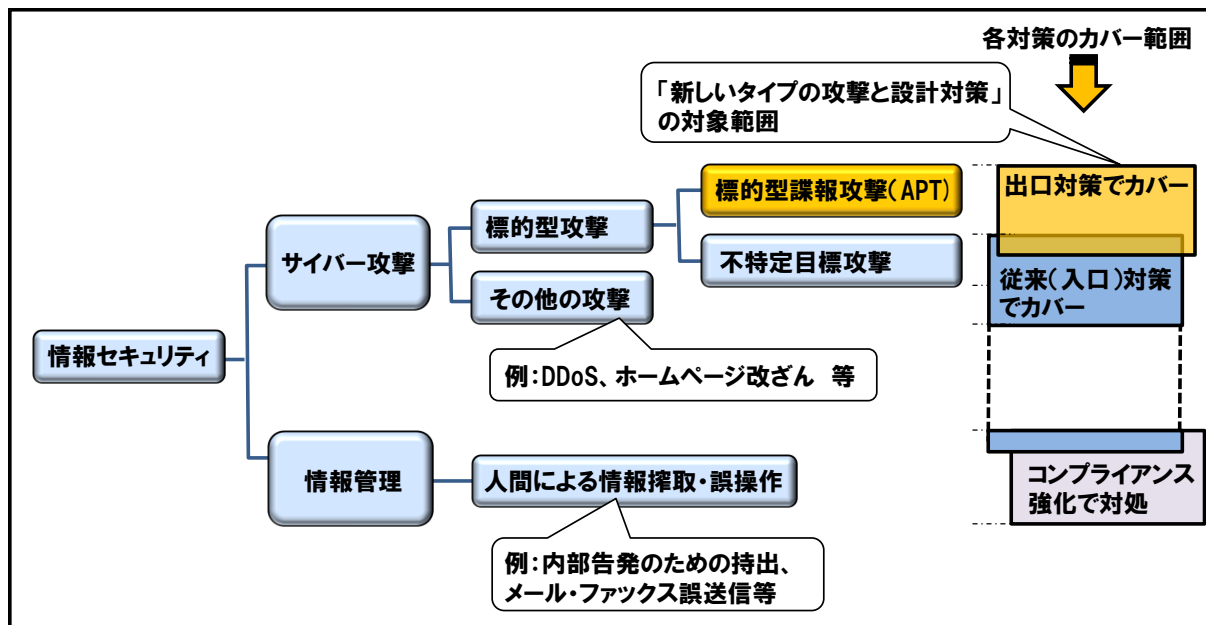


図1. 情報セキュリティ各分野の分類と各対策の関係

標的型攻撃の特徴

標的型攻撃を、標的型メール部分のみに着目せず、全体の動作や攻撃の意図性から分類すると、以下の2種類に分類されます。

・ 標的型諜報攻撃（APT）

国の経済や安全保障等に影響を及ぼす組織情報を窃取する活動を背景とし、特定目標組織を継続的に情報偵察する一連の攻撃。米国等でいわれている「APT」は、この攻撃パターンを指します。

・ 不特定目標攻撃

不特定目標に対し、主に金銭目的のために個人情報などを窃取する攻撃です。

以下に「標的型諜報攻撃」および「不特定目標攻撃」の概念と特徴を示します。

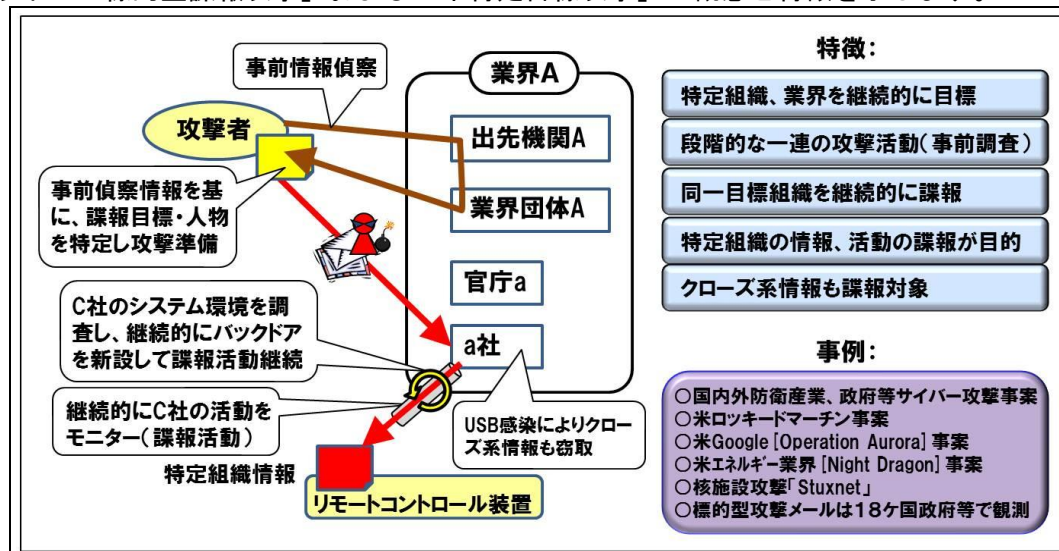


図2. 「標的型諜報攻撃」の概念と特徴

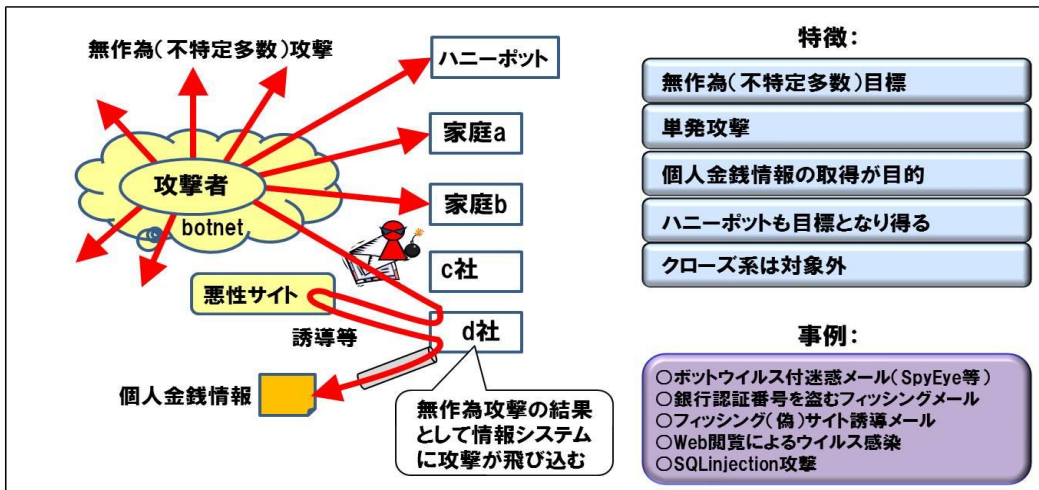


図3. 「不特定目標攻撃」の全体概念と特徴